

U-15 のための防災カレッジ2020  
報告書

## もくじ

1 事業の特徴	.....	1
2 事業の構成	.....	1
3 講座の概要	.....	2
(1)ジュニア防災キャプテン認定講座		2
(2)おやこ防災クッキング&ランチョンセミナー		3
(3)プロフェッショナルと考える未来の防災		4
(4)パワーアップ研修		6
(5)「ドイツ・ハンブルク市青少年消防団」との交流、相互学習		6
(6)ジュニア防災キャプテン認定、My 防災リュック贈呈		6
(7)「防災コミュニティ」の運営		6
4 講師プロフィール	.....	7
5 参加者実績	.....	8
6 アンケート結果・参加者の声	.....	8

2011 年の東日本大震災で大きな被害を受けた東北の町の様子を目の当たりにして、「災害で命を失うことは、未来を失うこと」だと大きな衝撃を受けた。この経験と災害の教訓をもとに防災教育に取り組む中で、災害に強い大阪の実現には、未来を担う子ども自身の防災力強化が何よりも重要だと確信し、活動を続けている。

「U-15 のための防災カレッジ」は、15 歳以下の子どもと保護者を主な対象とし、これから大人になっていく子どもの成長に寄り添い、成長過程を通して長期的な視野に立ち子どもの防災力を磨く場であり、学校や家庭以外の場所で防災を学べる場である。

カレッジでは、防災の基礎知識をはじめ、防災や医療、芸術、まちづくりなど、社会の様々な分野で活躍する専門家が集結。「子ども扱いしない」真剣で温かいまなざしで地域に根差した防災の大切さを伝え、防災力日本一の大阪の実現に導く。

2020 年は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受け、これまでの集合型を zoom によるオンライン講座に切り替えた。デジタル教材や zoom 機能を活用した進行に工夫を凝らし、子どもたちと双方向で学び合える、ライブ感の高い講座を実現した。

## 1 事業の特徴

- (1) 地域とのつながりをベースに子ども期から継続して学べる防災学習の場。
- (2) SDGs の理念である「誰一人取り残さない防災」の理解と共感を生み出す場。
- (3) 子どもの年齢や防災への関心、理解の度合いに応じて選択、受講できるカリキュラム。
- (4) 一定の防災知識を身につけた子どものさらなる進化・深化を引き出すフォローアップ体制。
- (5) コロナ禍でも事業継続が可能な方法としてオンライン配信を導入。

## 2 事業の構成

- (1) 「ジュニア防災キャプテン認定講座」(4講座)
- (2) 「おやこ防災クッキング&ランチョンセミナー」(4講座)
- (3) 「プロフェッショナルと考える未来の防災」(4講座)
- (4) 「パワーアップ研修」(2講座)
- (5) 「ハンブルク青少年消防団」との交流、相互学習(1講座)
- (6) 「ジュニア防災キャプテン」認定
- (7) 「防災コミュニティ」運営(通年)



これから大人になる私たちに大事なものは **知識+行動力=ホンモノの防災力!**

**めざせ!防災力日本一の大阪**

**U-15のための防災カレッジ**

(会場) 大阪国際交流センター

夏休みの自由研究におすすめ

2020年

- 第1回 7月5日(日)
- 第2回 7月19日(日)
- 第3回 8月30日(日)
- 第4回 11月15日(日)

作って・食べて・考えよう  
**おやこ防災クッキング**  
12:30~13:30  
非常時においしく食べる工夫を学ぼう

ジュニア防災キャプテン  
**認定講座**  
10:00~12:00  
自分の命を守るチカラを育てる

プロフェッショナルと考える  
**未来の防災**  
14:00~16:00  
専門家とデザインする未来の防災

主催: ママコミュ!ドットコム

### 3 講座の概要

#### (1) ジュニア防災キャプテン認定講座

講師：出水季治さん(日本防災士機構認証防災士、(一財)大阪市コミュニティ協会 都市コミュニティ研究室 研究員、防災教育団体「I×B ラボ」)、出水真輝さん(日本防災士機構認証防災士、市立水都国際中学校)

地域にいる時間が長く、地域の人や出来事をよく知り、リアルにつながる友達が多い、そんな「子どもの強み」にフォーカスした防災講座。災害に関する基礎知識や防災の現状について知るだけでなく、仲間との協働の中から多様性の理解と共助の精神を磨く全4講座。皆勤者には「ジュニア防災キャプテン」の認定証を授与。

第1回 「みんなで考えよう！子ども目線の防災」 2020年7月5日(日)

- ① 災害について
- ② 子ども目線の防災が大切
- ③ 子どもができる3つの備え
- ④ 「いつ・どこ防災ゲーム」

#### ◆要点

子どもは地域で過ごす時間が長く、地域のことをよく知っている。リアルにつながる友達が多いという子どもの「強み」を防災に生かすことが大事。防災の知識、モノの備え、人のつながりは防災力を構成する大切な要素。

いつ起きるかわからない地震に備えるためには自宅だけでなく、外出先で被災することも想定して「持ち歩く備え」も必要。また、家族の日々の行動パターンをもとに災害時の避難先や安否確認の方法を決めておくためにも、家族防災会議をぜひ開いてほしい。



第2回 「災害時に役立つ場所を探そう！防災まち探検」 2020年7月19日(日)

- ① 防災まち探検(バーチャル映像)
- ② 災害発生！今すぐ防災リュックを取ってきて！

#### ◆要点

「広域避難場所」「災害時避難所」「災害防災無線スピーカー」のほか、「災害救援自動販売機」公園内の「かまどベンチ」、公共施設内の「AED」、「災害時帰宅支援ステーション」など災害時に役立つ場所が身近なところにもある。

過去の災害の教訓を伝える「自然災害伝承碑」と呼ばれる場所が大阪府内に7か所ある。時間のある時に自宅や、よく行く場所の周囲にある災害時に役立つ場所を探して防災に役立ててほしい。

防災リュックを自宅のどこに置いてあるか、子どもも知っておく必要がある。今回は1分ほどで全員が取って来ることができた。



第3回 「防災力を試そう！防災ゲーム&実験大会」 2020年8月30日(日)

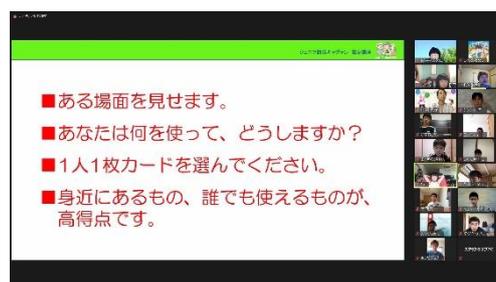
- ① 前回のふり返し：街の中にある災害時に役立つ場所
- ② 防災ゲーム「なまずの学校」
- ③ 防災実験で試してみよう(簡易トイレ、ペットボトルランタン)
- ④ サテライト会場とつながろう

(協力：親子カフェ Laugh Rough Laugh)

#### ◆要点

災害時に想定されるシーンを見ながら、必要なモノの備えを考える「なまずの学校」から、一人ひとりが知恵を出し合い難局を乗り越えることが大事だということがわかった。

食の備えと同じくらい大事なトイレの備え。1日のトイレ回数の平均を7回とすると一週間に必要な簡易トイレの個数がわかる。足りているか確かめよう。ペットボトルランタンの実演は、飲み物の種類によって明るさが



違うので、子どもでも楽しみながら試すことができる。

今回、初の試みとして、親子カフェからオンラインで講座を視聴していただいた。小さな子どもが興味深く画面をのぞいてくれたり、保護者が興味深く聞いてくださっている様子が見られた。

#### 第4回「キミの防災力を判定！防災クイズラリー&ジュニア防災キャプテン認定式」2020年11月15日(日)

- ① 認定講座の振り返り
- ② 「バーチャルまち歩き×クイズラリー」
- ③ 特別レクチャー「受け継がれる災害の教訓～稲むらの火と浜口梧陵～」講師：崎山光一さん(稲むらの火の館 館長)
- ④ ジュニア防災キャプテン認定式

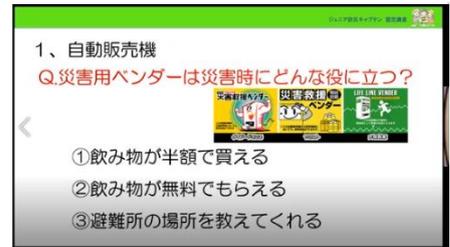
##### ◆要点

マップに書かれた場所を進み、映像を見ながらクイズに挑戦。在宅避難、小学校(避難所)、公衆電話(伝言ダイヤル)、飲料自販機(災害時ベンダー)、コンビニ(帰宅支援ステーション)、高層ビル(津波避難ビル/水害避難ビル)、津波フラッグなど、知っておくと災害時に役立つ場所を確認した。

1854年の安政地震による津波に因む「稲むらの火」の話は70年前の小学国語読本に載っている。小泉八雲作の「生きている神様(A Living God)」が海外で広まり、「世界津波の日」の制定にもつながった。

被災直後は稲むらに火を放ち人々を津波から救った。その後、資材を投じて村を守る堤防の建設に着手。防災と復興を成し遂げた偉人の想いを大阪の子たちにもぜひ受け取ってほしい。

全4回の講座に参加してくれた子ども(13名)をジュニア防災キャプテンに認定し、防災リュックを贈呈。協賛企業の方からの祝辞、メッセージを披露。



#### (2)おやこ防災クッキング&ランチョンセミナー

講師：南井由希子さん(料理研究家)

非常食の定番、アルファ化米(白米)はそのまま食べるだけでは味がシンプルで、栄養バランスにも乏しく、避難生活が長期化すると食生活が単調になりがち。災害時に食環境の変化によるストレスを極力なくすと共に、備蓄食料を効率よく入れ替えながら備える(ローリングストック)方法を知っておくことが大事。

非常食だけでなく保存性の高い食材をうまく組み合わせると栄養豊かで変化に富んだ美味しいメニューを作る方法を知っておくことも「食べる備え」として大いに役立つ。レシピは別添。

#### 第1回「アルファ化米で作るいなり寿司&水ようかん」2020年7月5日(日)

非常食の定番、アルファ化米を使ってお寿司を作った。いなり寿司は酢の酸味とあげの甘みが食欲を刺激し、子どもでも高齢者でも食べやすい。

酢は腐敗を抑える効果も大きい。水ようかんはツルツとした食感と喉ごしで特に高齢者には食べやすい。寒天は常温でも固まるので冷蔵庫が使えない時でも作ることができる。飲み水からだけでなく、食べ物からの水分補給も重要。



#### 第2回「アルファ化米で作るチキンライスとフルーツミルク寒天」2020年7月19日(日)

非常食の定番、アルファ化米を戻す際に水やお湯だけでなくトマトジュースとコンソメで調味すると子どもにも食べやすい味になる。

また、冷凍や乾燥の野菜を使うことで停電時の冷蔵庫内の食材を効率よく使うなどの工夫を実践。

トマトの風味は適度の酸味が食欲を刺激する。フルーツミルクかんはツルツとした食感と喉ごしで食べやすい。寒天は常温でも固まるので冷蔵庫が使えない時でも作ることができる。夏場の体調管理で重要な水分補給は食べ物やおやつからもできる。



### 第3回 「アルファ化米で作るチーズカレードリアと湯煎調理で作るバナナ蒸しパン」 2020年8月30日(日)

災害時は非常食の一択ではなく、食べ慣れたレトルト食品や保存性の高い食品を使うことで食ストレスが軽減される。キャンプ用品を活用すると災害時でも作れるチーズカレードリアを紹介。

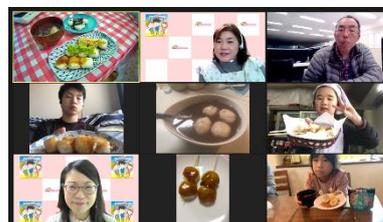
湯煎調理袋メーカー(ワタナベ工業)の方から、高密度ポリエチレン袋の特性や素材の見分け方、安全な調理法についてオンラインでレクチャーを受けた。



### 第4回 「アルファ化米で作る和スイーツいろいろ」 2020年11月15日(日)

アルファ化米(白米)を使って家族や周囲の人々と分け合えるメニューとして和スイーツ4品を紹介。

甘みのある食べ物は疲労回復にもよい。アルファ化米を規定量の二割増しの熱湯で調理することで柔らかい触感の白米ができる。これをつぶすと粘りが出てお餅のように食べることができる。



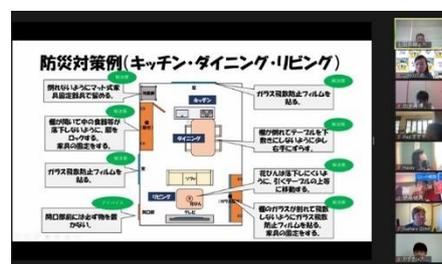
## (3) プロフェッショナルと考える未来の防災

防災をはじめ、医療、保健、芸術など、社会の様々な分野で活躍するプロフェッショナルが集結。子どもの「もっと知りたい」という意欲に正面から向き合い、「子ども扱いしない、されない」が約束の真剣勝負の場。

### 第1回 建築学のプロと考えよう! 「地震に強く、安全・安心な住まい」 2020年7月5日(日)

講師: 生田英輔さん(大阪市立大学大学院生活科学研究科 准教授)

- ① 便利に進化する暮らしと災害
- ② 地震による家と人の被害
- ③ 家具の転倒防止(実験映像)
- ④ 建築学から考える家の役割
- ⑤ 地震時の超高層建物(実験映像)
- ⑥ 事前学習課題の発表(キッチン、リビング、個室)
- ⑦ 自宅の危険箇所をチェック \*防災グッズカード別添



#### ◆要点

太古から地震は存在していたが、簡易な住居では大きな被害はなかった。人間が進化し、豊かで便利な生活を手に入れた代わりに、災害時に住まいが住人の命を奪う場合が増えてきた。

住宅や家具の話は学校では「家庭科」で少し習うが、防災の視点からより深く学ぶ機会は乏しい。地震の時に生き残るために家具の固定の大切さを知り、備えにつなげてほしい。そして、周りの友達にも伝えてほしい。

### 第2回 ストーリーと絵で伝えよう! 「ガンチャンと作る防災かみしばい(前半)」 2020年7月19日(日)

講師: 紙芝居屋のガンチャン((一社)社会の窓社 代表理事)

- ① 防災紙芝居を作る前に「防災」についておさらい。
- ② 防災の大切さを伝える大切なキーワードは?
- ③ 紙芝居屋のガンチャン登場、サンプル作品の口演
- ④ 紙芝居制作の極意
- ⑤ 実際に作ってみよう 次回までの宿題



#### ◆要点

冒頭で災害や防災に関する子どもたちの関心や知識を引き出す防災士のお話のあと、ガンチャンが登場。紙芝居のプロが伝授する「めっちゃ伝わる」紙芝居作りのコツ(題材探し、主人公や登場人物、ストーリーの組み立て方、絵の描き方)を学び、いざ制作。

地震、津波、火災など恐ろしい災害に直面した主人公や登場人物が力を合わせて難局を乗り切るストーリー展開と絵の力でプロ脱帽の力作が次々と完成した。次回の発表会までに各々完成させることとした。

### 第3回 ストーリーと絵で伝えよう！「ガンチャンと作る防災かみしばい(後半)」 2020年8月30日(日)

講師:紙芝居屋のガンチャン((一社)社会の窓社 代表理事)

前回の講座の後、それぞれが紙芝居を完成させ、披露した。地震、津波、火災、台風、複合災害など、子どもたちが思い描く災害が現実を正確に理解、把握していること、話の中に家族や仲間が登場し、力を合わせて難局を乗り切る様子が生き生きと描かれており、子どもたちの災害に対するイメージや防災の大切さを伝えたいという熱意が大いに感じられた。

防災士、元消防士、地域防災実践者、まちづくり専門家などコメンテーターから作品ごとに評価コメントをいただいた。講師が子どもたちから出てきた防災への想いをまとめたオリジナルの紙芝居の完成披露を行った。

(追記)参加者が令和2年度手作り紙芝居コンクール(いの町紙の博物館:高知県)本選に進出。



### 第4回 国際保健の研究者と読もう！「世界を旅する絵本」 2020年11月15日(日)

講師:谷口博子さん(東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室)

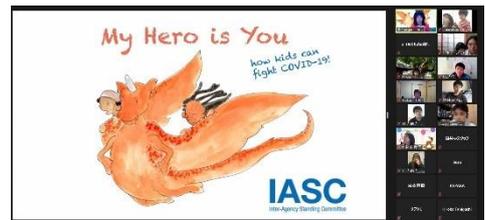
- ① コロナ禍で世界はどうなっているのか？
- ② 絵本「みんながヒーロー My Hero is You」の輪読
- ③ みんなの「しんどいこと」は何？  
「安心できる場所、落ち着くこと何だろう」紙に書いて共有しよう。
- ④ 外国のゲストと話そう(イタリア、韓国、ミャンマー)

#### ◆要点

コロナの影響で世界がどう変わったか、講師のほか、実際に各国で医療に携わるゲスト 3 名が登場し、現状を伝えた。コロナがどんな病気がわからず、子どもも大人も世界中が不安になっている。

講師は子どもの心を元気にする絵本「みんながヒーロー」の日本語版を担当。現在、129 言語に訳されて世界中で読まれている。この本を一人ずつ輪読。

各国の医療者(イタリア、韓国、ミャンマー)からコロナの様子を聞き、冒頭で書いた「安心できる場所・こと」の紙をもう一度確認しながら、不安に向き合う方法を伝えた。



### (4) パワーアップ研修

#### 第1回 「やさしい免疫学教室 ～コロナ禍の今、知っておきたいコト～」 2021年1月11日(火・祝)

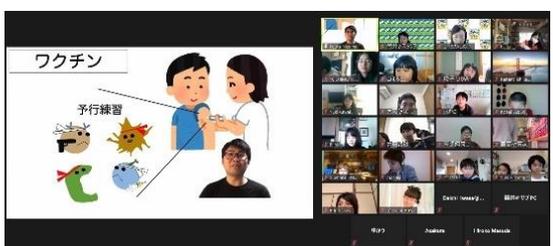
講師:新妻耕太さん(スタンフォード大学博士研究員、免疫学研究者)

- ① 僕が小さい頃の話～研究者になるまでのストーリー
- ② ウイルスって何？免疫って何？ワクチンって何？
- ③ みんなができる！コロナウイルス対策

#### ◆要点

人の体には37兆個の細胞があり、細胞内の“工場”で新しい細胞がどんどん作られる。この仕組みをウイルスが利用して体内で増殖する。ウイルスが侵入するとマクロファージと樹状細胞が戦う→食べて掃除→ウイルスの情報を伝える→記憶細胞→次の侵入時にはより早く対応ができる。

新型コロナウイルスを体内に入れないためにはマスク、手洗い、うがいが有効。規則正しい生活、好き嫌いをしない、運動、そして幸せな気持ちでいると体の免疫細胞の働きが強くなる。自分の身体を守ってくれる免疫がバランスよく戦えるように助けてあげよう。



## 第2回「2つの地震 大阪が直面する防災の課題」2021年2月28日(日)

講師: 本田義博さん(大阪市立阿倍野防災センター センター長)

- ① 正常性バイアス 人はなぜすぐに逃げないのか
- ② 地震のメカニズム、地震・火山大国日本
- ③ 南海トラフに備えて
- ④ 災害は毎回違う姿でやってくる
- ⑤ 古地図から検証する関東大震災
- ⑥ 備えあれば患いなし



### ◆要点

防災に関わる人は、いち早く避難する率先避難者になってほしい。

大阪の災害リスクの確認。南海トラフ地震による津波到達まで110分、上町台地より西は浸水の危険あり。上町台地は直下型地震のリスクを含んでいる。発生確率の大小だけで安心してはならない。

南海トラフ巨大地震(想定 M9.1)が発生すると、東海～九州まで大きな被害を受けるため迅速な救助、救援が期待できない。富士山噴火と連動すると首都圏が火山灰に覆われ、太平洋沿いの都市機能が停止。

居安思危(安きに居りて危うきを思う)、思則有備(思えば則ち備え有り)、有備無患(備え有れば患い無し)という言葉がある。日頃から備えていれば慌てることはないという意味。

\* 感染拡大防止のため、専門家、関係者のみの参集とし、講座の様子を撮影した映像を配信。

## (5) ドイツ・ハンブルク市青少年消防団との交流・学習 2020年10月31日(日)

大阪とハンブルクは姉妹都市として 30 年以上の交流の歴史があり、2010 年からは、大阪市青少年国際交流協議会を事務局とし、相互交流をベースに防災をテーマとした相互学習を継続してきた。

今回はコロナの影響で相互訪問が叶わず、オンラインによる交流となった。お互いの国の防災活動の歴史や現状について、日本語、英語、ドイツ語を交えながら、文化や防災に関するクイズ、グループディスカッションなどを通して交流し、理解を深め合った。



在ハンブルク日本国総領事館から加藤喜久子総領事のご臨席を賜った。

## (6) ジュニア防災キャプテン認定、My 防災リュック贈呈

ジュニア防災キャプテン認定講座の皆勤者を「ジュニア防災キャプテン」に認定。子ども社会における「防災の司令塔」として地域防災力の向上を牽引する人材として育成。主催者及び協賛企業から「自分で考えて完成させる My 防災リュック」を贈呈。今年度認定者13名、累計105名。

## (7) 「防災コミュニティ」の運営

講座参加後も継続して防災に関心を持ち続けられるよう、ジュニア防災キャプテン認定者を中心に LINE の公式アカウントを活用した「防災コミュニティ」を運営。130組の登録に向けて36本の防災関連情報を配信。

## 4 講師プロフィール

### (1) ジュニア防災キャプテン認定講座



出水季治さん、出水眞輝さん(日本防災士機構認証防災士、一般財団法人大阪市コミュニティ協会 都市コミュニティ研究室研究員、防災教育団体 I×B ラボ)

親子防災士として活動中。季治さんはまちづくり系シンクタンクで防災の研究、実践に携わる。眞輝さんは「防災は命に関わる大切な情報だからプロとして伝えたい」と考え、史上最年少9歳で防災士試験に合格。在籍する大阪市立水都国際中学校で市内初となる防災部を創部。

### (2) およこ防災クッキング



南井 由希子さん(料理研究家)

辻調理師専門学校卒業後、料理教室講師として約 5 年勤務。結婚後は専業主婦として家族のために愛情いっぱいのレシピづくりに勤しむ。2016 年に“防災と食”というテーマに出会い、料理研究家として活動を本格的に再開。非常食と身近に手に入る食品を組み合わせ、栄養豊かで美味しく、アレルギーや持病を持つ人も安心して食べられるメニューを開発している。

### (3) プロフェッショナルと考える未来の防災



生田英輔さん(大阪市立大大学院生活科学研究科 准教授、大阪市立大学都市防災教育研究センター 副所長)

大阪市立大学生活科学部卒業、同大大学院生活科学研究科後期博士課程修了。

現在、同大都市防災教育研究センター副所長を兼任。専門は居住安全工学。著書に『コミュニティ防災の基本と実践(共著)』(大阪公立大学共同出版会)など。



紙芝居屋のガンちゃん(一般社団法人社会の窓社 代表理事)

大人も爆笑、子どもも熱狂、めちゃめちゃおもしろいオリジナル紙芝居100作以上。関西を中心に全国、海を越えてアメリカ、メキシコ、台湾、ベトナムでも活躍。「ニッポン全国街頭紙芝居大会 in ぬまづ」にて大賞受賞。全国の紙芝居師が協力して制作したプロジェクト紙芝居「STAY WARS」で脚本演出編集を担当。



谷口博子さん(東京大学大学院医学系研究科 国際保健政策学教室)

兵庫県出身。国際理解と保健・医療をテーマにメディア事業に従事。2009 年より特定非営利活動法人国境なき医師団日本で広報マネージャー・編集長を務める。2018 年退職。現在、東京大学大学院で保健政策、医療人道援助について研究中。担当書籍に、『妹は 3 歳、村にお医者さんがいてくれたなら。』(国境なき医師団日本著/合同出版)、『「国境なき医師団」を見に行く』(いとうせいこう著/講談社)など。

### (4) ジュニア防災キャプテンパワーアップ研修



新妻耕太さん(スタンフォード大学博士研究員、免疫学研究者)

1991年千葉県生まれ。2020年3月から夫婦で開設したYoutubeチャンネルでは、専門用語を使わずに新型コロナウイルス感染症をやさしく解説する動画教材を公開した。子どもの頃の夢は学校の理科の先生。筑波大学生物学類卒、筑波大学ヒューマンバイオロジー学位プログラムにて博士(人間生物学)を取得。



本田義博さん(大阪市立阿倍野防災センター センター長)

大阪市消防局で消防士や救急隊員として長年従事した後、大阪市立阿倍野防災センターの代表として、これまでの経験を生かして市民一人ひとりの防災力を高めるために尽力。世界のミニ消防車のコレクターとしても有名。

## 5 参加者実績

		第1回	第2回	第3回	第4回	合計
	子ども	75	30	29	23	157
	大人	82	56	53	39	230
	合計	157	86	82	62	387
ジュニア防災キャプテン認定講座	子ども	17	12	12	11	52
	大人	25	17	16	10	68
おやこ防災クッキング	子ども	7	8	6	4	25
	大人	15	12	15	12	54
プロフェッショナルと考える未来の防災	子ども	10	10	11	8	39
	大人	16	15	22	17	70
パワーアップ研修	子ども	21	0			21
	大人	14	12			26
ハンブルク市青少年消防団との交流	子ども	20				20
	大人	12				12
ジュニア防災キャプテン認定者	子ども	13				13
						累計 105

## 6 アンケート結果・参加者の声(抜粋)

- (1) 居住・通学地域
- ① 大阪府内 82%
  - ② 近畿 14%
  - ③ その他 4%
- (2) 参加の動機
- ① 15歳以下の防災に関心あり 51%
  - ② もともと防災に関心あり 32%
  - ③ ジュニア防災キャプテンになりたい 14%
  - ④ オンライン講座だから 28%
- (3) 情報源
- ① 学校 41%
  - ② 主催者のホームページ、SNS 19%
  - ③ 昨年からのリピート 15%
  - ④ クチコミ 13%
- (4) 満足度 平均 4.95/5 点
- (5) 参加者の声

- 子ども
- ・少しむずかしかったけど、防災のべんきょうはたのしかった。
  - ・パソコンだけど先生と直接話せて一緒に勉強している感があった。
  - ・パソコンで町歩きができておもしろかった。
  - ・ズームのお友だちができた。こんどは本当に会いたいな。
  - ・世界の人とお話しできてびっくりした。防災は世界につながってるって思った。
- 保護者
- ・子どもが防災を学ぶ意味がよくわかった。
  - ・自閉症の娘が最後まで集中してお話を聞いていました。感動。。
  - ・発達障害があり学校では発言しないわが子が生き生き話していた。
  - ・移動のリスクなく参加できるのがよい。大人も勉強になった。

- ・ほかのお子さんの防災に対する意識を知ることができた。
- ・少しむずかしいけど楽しかった。
- ・ジュニア防災キャプテンの資格が欲しかったので嬉しかった。
- ・他府県で豪雨被害があり、気になっていた。これからしっかり学んでもらおうと思った。
- ・知らない世界のことを知ることができて大変満足。
- ・コロナ禍での世界の状況についてタイムリーなことを学ぶことができた、

### 「U-15 のための防災カレッジ 2020」

- 主催 ママコミュ!ドットコム
- 後援 大阪市、(公財)大阪国際交流センター
- 助成 大阪市(大阪市市民活動推進助成事業補助金)、(公財)大阪コミュニティ財団、こくみん共済 coop
- 協賛 大阪信用金庫、昭和交易(株)、雑穀屋やま元、ココアショップアカイトリ、(株)ポローニャ、  
防災専門店 MT-NET、日本マクドナルド(株)、大幸薬品(株)、(株)モリタホールディングス、  
にゃん子ん家、(株)千勝不動産、(株)岩名フードサービス、J:COM、無茶々園、大阪商工信用金庫、  
(株)銭屋本舗、ワタナベ工業(株)、(株)伊藤園、国際興業(株) (順不同)
- 協力 I×B ラボ、大阪商業大学中嶋貴子ゼミ、稲むらの火の館/津波防災教育センター、  
CFK 中央区フィランソロピー懇談会、ハマ리카ラボ、親子カフェ Lough Rough Laugh
- 受賞 近畿労働金庫 ろうきんアワード「はぐくみ賞」受賞、  
クリエイティブアワード関西 2019-2020 第3位、  
CSO アワード 深掘り部門「ホープ賞」、「大阪ロータリークラブ賞」、  
博報堂教育財団「博報賞」奨励賞